

千葉県における落花生栽培の歴史

和暦（西暦）	事 項
宝永3年（1706）	落花生が中国から本州に伝播したが、商業栽培にはいたらなかった
明治9年（1876）	山武郡南郷町（現山武市）の牧野氏が千葉県初の落花生栽培
明治10年（1877）	県が落花生の試験栽培実施
明治11年（1878）	県が政府から種子を得て、栽培を奨励
〃	匝瑳郡鎌数村（現旭市）の金谷氏が落花生の栽培と普及を開始
明治20年（1887）	県内の落花生作付面積は591ha
明治22年（1889）	「千葉県落花生商業組合」設立 翌年から県産落花生の輸出開始
明治30年（1897）	総武鉄道（現JR総武本線）が開通し、沿線からの落花生の出荷・流通が盛んに
明治35年（1902）	県内の落花生作付け面積は2,929haまで増加
大正11年（1922）	千葉県農業試験場が落花生の品種改良を開始
昭和2年（1927）	品種「千葉43号」、「千葉55号」、「千葉74号」を育成
昭和16年（1941）	麦・大豆・サツマイモ等の増産のため、落花生の栽培を制限
昭和27年（1952）	品種「千葉半立」を育成
昭和33年（1958）	県が落花生育種研究室を八街町に設置
昭和40年（1965）	マルチ栽培が広まり始めた 県内の落花生作付面積は25,500haの最盛期に
昭和48年（1973）	落花生加工品の輸入自由化
昭和54年（1979）	品種「ナカテユタカ」を育成
平成7年（1995）	生落花生の輸入自由化
〃	品種「郷の香」を育成
平成10年（1998）	「千葉県レトルト落花生製造連絡協議会」設立。レトルト落花生販売開始
平成19年（2007）	極大粒品種「おおまさり」を育成
平成25年（2013）	品種「千葉P114号」（Qなつつ）を育成 （平成30年（2018）販売開始）
平成27年（2015）	極大粒品種「おおまさりネオ」を育成 （令和3年（2021）販売開始）
令和5年（2023）	県内の落花生作付面積は4,680ha
令和8年（2026）	千葉県で落花生栽培150周年

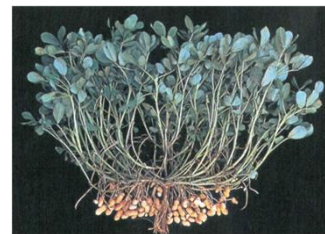
年表は「千葉県らっかせい百年誌」等を参考にして作成



牧野萬右衛門氏



干潟郷落花生記の石碑（旭市鎌数）



千葉半立



機械によるマルチ張り



品種改良の様子
（畑で優良な系統を選ぶ）



ぼち積み（収穫した株の露地乾燥）



レトルト落花生



Qなつつデビューイベント



郷の香

おおまさりネオ

おおまさり

ゆで豆用として育成された品種

千葉県農林総合研究センター
落花生研究室

